



3学期 スタート！

昨日、子供たちの明るく希望に満ちた笑顔とともに始業式を行い、3学期がスタートしました。

始業式では、新年のあいさつを終えたあと、元日に起きた「令和6年 能登半島地震」で亡くなられた方や被災された方に対する黙とうを行いました。本来なら、1年のうちで最も晴れやかな気持ちになるはずの日が、一瞬で悲しみと喪失感に襲われてしまいました。子供たちには、そういった人の心の痛みを感じてほしいという願いとともに、自分たちが感じている当たり前の日常が、いかに幸せでありたいことなのか、それに対する感謝の心をもってほしいと思っています。

さて、始業式では子供たちに次のようなことを伝えました。

1つは、『『願い』を強くもつことで、それを叶える努力をすることができる。』ということ。「その挑戦が、未来を変える」という言葉とともに話しました。これまでも伝えてきたことですが、願うだけでなく、行動することが大切だということ伝えました。ただ、新しいことに挑戦するということは、とても勇気がいることだと思います。挑戦には失敗はつきものですが、失敗を恐れて挑戦しないのではなく、失敗から次へのヒントを学び、その失敗を乗り越える心の強さをもってほしいと願っています。

2つ目は、昨日の「こがくらだより」にも記載しましたが、「凡事徹底（ぼんじてってい）」です。「当たり前のこと大切にしよう」ということで、毎日の生活に感謝しつつ、一つ一つに一生懸命取り組んでほしいという願いを伝えました。

そして最後に、わずか50日程度の登校で、6年生は中学生という新たな道に進んでいきます。1～5年生も一つ学年があがります。良いことと悪いことの判断をしっかりとし、友達を大切に、という自分でありたいかをしっかりと考え、それに近づけるよう、この3学期を充実したものにしてほしい。と締めくくりました。どうぞ短い3学期ですが、変わらぬ御支援をよろしくお願いいたします。

鬼火（おんの火）焚き

1月8日（月）に小ヶ倉小グラウンドにて「鬼火（おんの火）焚き」が行われました。
※小ヶ倉地域では、昔から“おんのひ”と呼ぶそうです。
“おんのひ（ほね）”とは、源頼光が鬼退治で鬼の腕骨を焼いたという故事にちなみ、竹が焼けて弾ける音が鬼の骨が焼ける音に擬えて、鬼の骨を焼いて厄を払っていると言われています（諸説あります。）。
朝早くから、地域の方や保護者の皆様、そして子供たちのお力をお借りして、竹の切り出し、通学路の清掃、炊き出し（豚汁）等をしていただき、誠にありがとうございます。

高さ約7メートルほど積み上げた巨大な竹の柱は、11時の点火とともに一気に燃え上がり、「パーン、パーン」と弾ける音をたてながら、新年一年間の無病息災・家内安全の願いとともに大きな火柱となりました。地域によっては、この音とともに「おんの～ほね」と大声で言うそうですが、ここ小ヶ倉



では、150名ほどの参加者とともに、静かに燃え落ちるを見届けていました。その後は、思い思いに餅や芋を焼き、食しました。

大谷選手からの贈り物



皆様御存知だと思いますが、昨年の11月初め、メジャーリーグで活躍中の大谷翔平選手（ロサンゼルス・ドジャース）が全国の小学校へ野球グローブを贈るということで話題となりました。それが、12月26日に小ヶ倉小にも届きました。

昨日の始業式の中で、子供たちにもお披露目しました。今後授業の中で活用したり、展示したりするなどしていきます。